

注射用HCG3,000単位「F」 注射用HCG5,000単位「F」 注射用HCG10,000単位「F」

【この薬は？】

販売名	注射用HCG 3,000単位「F」 HUMAN CHORIONIC GONADOTROPHIN for injection	注射用HCG 5,000単位「F」 HUMAN CHORIONIC GONADOTROPHIN for injection	注射用HCG 10,000単位「F」 HUMAN CHORIONIC GONADOTROPHIN for injection
一般名	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン Human Chorionic Gonadotrophin		
含量 (1管中)	3,000単位	5,000単位	10,000単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬は、性腺刺激ホルモン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・女性に対しては、卵巣に働きかけ、卵胞の成熟や排卵の誘発、黄体の形成を促します。
- ・男性に対しては、精巣に働きかけ、男性ホルモンの産生ならびに精子の形成を促します。
- ・次の目的で、自己注射のため処方されます。

生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化

一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化

- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

〈製剤共通〉

無排卵症（無月経、無排卵周期症、不妊症）

機能性子宮出血

黄体機能不全症又は生殖補助医療における黄体補充

停留睾丸

造精機能不全による男子不妊症

下垂体性男子性腺機能不全症（類宦官症）

思春期遅発症

睾丸・卵巣の機能検査

妊娠初期の切迫流産

妊娠初期に繰り返される習慣性流産

〈5,000単位、10,000単位〉

生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化

一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化
〔卵巣機能検査の場合〕

- ・この薬は、卵胞刺激ホルモン（FSH）製剤と併用されることがあります。

〔自己注射する場合（生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合）〕

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者またはご家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- この薬を不妊治療に使用した場合、脳梗塞や肺塞栓を含む血栓塞栓症（激しい頭痛、胸の痛み、激しい腹痛、足の激しい痛みなど）などを伴う重篤な卵巣過剰刺激症候群（お腹が張る、吐き気、体重増加、尿量が減るなど）があらわれることがあります。【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。

- 次の人は、この薬を使用することはできません。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・アンドロゲン依存性悪性腫瘍（前立腺がんなど）のある人、またはこれらの病気の疑いのある人
- ・過去に性腺刺激ホルモン製剤で過敏症のあった人
- ・性早熟症の人

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

- ・治療していないまたは治療を要する血栓塞栓性疾患のある人

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてくだ

さい。

- ・前立腺肥大のある人
- ・エストロゲン依存性悪性腫瘍（乳がん、子宮内膜がんなど）のある人、またはこれらの病気の疑いのある人
- ・過去に乳がんになったことがある人
- ・血縁に乳がんになった人がいる人、乳房にしこりがある人、乳腺症のある人、乳房レントゲン像に異常がみられた人
- ・未治療の子宮内膜増殖症のある人
- ・子宮筋腫のある人
- ・子宮内膜症のある人
- ・てんかん、片頭痛、喘息、心疾患のある人
- ・骨成長が終了していない可能性がある人、思春期前の人
- ・血栓塞栓症がおこる危険性が高い人（患者さんや家族の方が過去に血栓塞栓症を経験したことがある場合など）
- ・腎臓に障害のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○この薬の使用前に患者さん及びパートナーの検査が行われます。

特に、甲状腺機能低下、副腎機能低下、高プロラクチン血症、下垂体または視床下部腫瘍などのある人は、それらの疾患の治療が優先されます。

〔生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○この薬の使用前に以下の検査が行われることがあります。

- ・超音波検査
- ・血清エストラジオール濃度を測定するための血液検査

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化で使用する場合〕

○この薬を使用する場合に予想される危険性や注意すべき症状について十分理解できるまで説明を受けてください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

・使用量は、あなたの症状にあわせて、医師が決めます。

通常、使用する量および回数は、次のとおりです。

目的	使用量・使用回数
生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療	5,000 単位を単回皮下注射しますが、状態に応じて 10,000 単位投与する場合があります。

(体内での受精を目的とした不妊治療)における排卵誘発及び黄体化	
---------------------------------	--

●どのように使用するか？

- ・この薬は下腹部の皮下に注射します。具体的な使用方法については、末尾の「自己注射の手順」、本剤の「自己注射取扱説明書」を参照してください。
- ・使用後の注射針は、そのまま容器等に入れて子供の手の届かないところに保管してください。

〔生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化〕

- ・採卵の34～36時間前を目安に投与してください。

●服用し忘れた場合の対応

速やかに医師に連絡し、指示を仰いでください。

●多く使用したとき（過量投与時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔無排卵症（不妊症）、生殖補助医療における黄体補充、生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化で使用する場合〕

○本剤投与により卵巣過剰刺激症候群があらわれることがあります。

- ・一般不妊治療の場合は、排卵誘発中およびこの薬の使用前に超音波検査により、卵巣の反応を確認します。
- ・生殖補助医療の場合は、調節卵巣刺激中およびこの薬の使用前に超音波検査や血液検査により、卵巣の反応を確認します。
- ・自覚症状（下腹部の痛み、お腹が張る、吐き気、腰痛等）や急激な体重増加が認められた場合にはすぐに医師等に相談してください。
- ・治療中は、超音波検査等により卵巣の大きさが確認されます。

○卵巣過剰刺激症候群の徴候が認められた場合には、この薬の使用の延期または中止について、慎重に判断されます。また、少なくとも4日間は性交渉を控え、避妊する必要がある場合がありますので、医師の説明を受けてください。卵巣過剰刺激症候群は急速に重症化することがあるため、この薬を使用後少なくとも2週間の経過観察が行われます。

○一般不妊治療の場合、卵巣過剰刺激の結果として、多胎妊娠*の可能性がります。

*：多胎妊娠：二人以上の胎児が同時に子宮内にいる状態

〔無排卵症（不妊症）、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合〕

○排卵誘発を受けた人は、自然妊娠に比べて多胎妊娠・出産（大部分は双生児）の頻度が高くなることがあるので、この薬を使用する前には超音波検査によって

十分に観察され、多胎妊娠が予想された場合、治療が中止されることがあります。

〔自己注射する場合（生殖補助医療における卵胞成熟及び黄体化、一般不妊治療（体内での受精を目的とした不妊治療）における排卵誘発及び黄体化の場合）〕

○使用方法および安全な廃棄方法について、次のことについて十分に理解できるまで説明を受けてください。

- ・このお薬を注射後、副作用と思われる症状があらわれた場合や自己投与の継続が困難な場合には、直ちに自己投与を中止し、医師または薬剤師に相談してください。
- ・使用済みの注射針あるいは注射器を再使用しないでください。
- ・すべての使用済みの器具については、安全な廃棄方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・使用する前に末尾の「自己注射の手順」、本剤の「自己注射取扱説明書」を必ず読んでください。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- 授乳している人は医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
卵巣過剰刺激症候群 らんそうかじょうしげきしょう こうぐん	お腹が張る、吐き気、体重増加、尿量が減る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、体重増加
頭部	めまい、意識の消失
顔面	顔面蒼白（そうはく）
口や喉	吐き気
腹部	お腹が張る
手・足	手足が冷たくなる
尿	尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	注射用 HCG 3,000 単位「F」	注射用 HCG 5,000 単位「F」	注射用 HCG 10,000 単位「F」
性状	白色～淡黄褐色の粉末又は塊（凍結乾燥製剤）		
形状			

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン
添加剤	乳糖水和物（ウシ乳由来）
添付溶解液	日局 生理食塩液 1 mL

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（1～15℃）で保管してください。光を避けてください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分方法について薬局や医療機関に相談してください。

●このくすりの廃棄方法は？

- ・使用済みの針および注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：富士製薬工業株式会社 (<https://www.fujipharma.jp/>)

学術情報課

電話番号：0120-956-792

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

【自己注射の準備】

＜製品仕様＞



薬



溶解液

- ・注射用HCG「F」は図のようにお薬（粉）と溶解液（生理食塩液1mL）の2本のアンプルに分かれています。注射をするときはお薬を溶解液に溶かして使用します。
- ・注射用HCG「F」は使用する直前に溶かしてください。

1

【作業場所の確保】

テーブルなど明るく平らな場所で作業を行います。はじめにアルコールで消毒し、十分な広さを確保してください。



2

【手洗い】

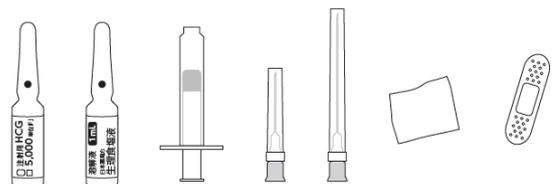
せっけんで、手のひら、指の間、手の甲まで十分に手を洗ってください。



3

【注射する際に必要なもの・準備するもの】

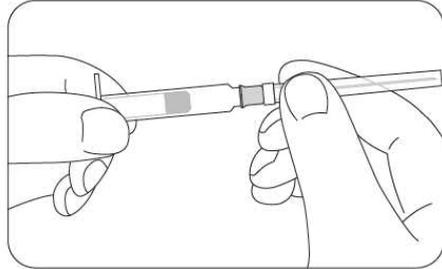
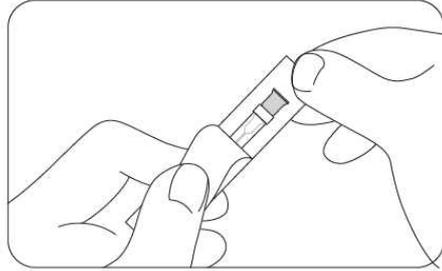
- ・薬剤（注射用HCG「F」）と溶解液（生理食塩液1mL）
- ・注射器
- ・溶解用の注射針
- ・皮下注射用の注射針
- ・消毒用アルコール綿
- ・絆創膏（あれば）



4

【注射器の準備】

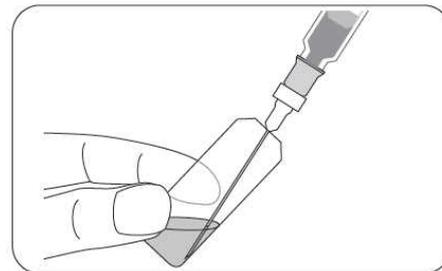
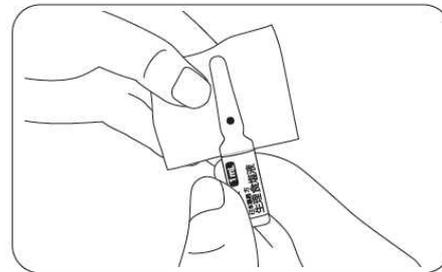
注射器と溶解液用の注射針を清潔に包装から取り出し、注射器へ注射針をしっかりと接続します。
このときに、接続部位を直接触れないようにしてください。



5

【溶解液を吸う】

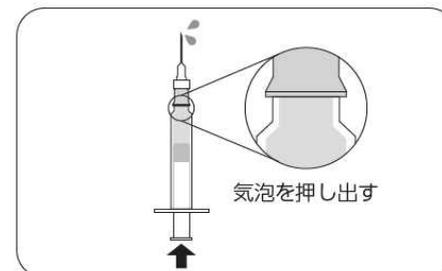
(1) 溶解液アンプルの上部に溶解液が残っていないかを確認し、残っている場合は軽く指ではじいて落とします。
(2) アンプルの周りをアルコール綿で消毒し、アンプルの●印に親指を当てて、そのままアンプルを折ります。
(3) 注射針のキャップをはずし、アンプルを持ってなるべく空気を吸わないように溶解液を注射器に吸い上げます。



6

【薬剤を溶かす】

(1) 薬剤のアンプルを溶解液アンプルと同様に開封します。
(2) 薬剤アンプルの中に溶解液を全量注入し、粉を完全に溶かします。
(3) 注射器でなるべく空気を吸わないよう薬液を吸い上げます。
(4) 注射器内に気泡がはいった場合は、注射器を2～3回はじき、上部へ集めた気泡を押し出して液が出ることを確認したら、注射針にキャップをします。

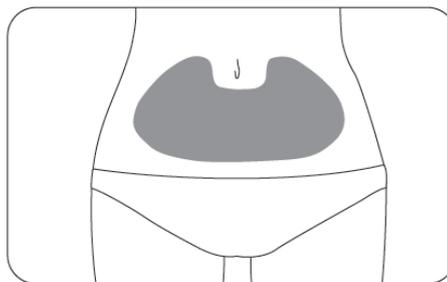


7

【皮下注射の準備】

- (1) 注射器の針を皮下注射用の注射針に交換します。
- (2) アルコール綿で注射する部位を消毒します。
注射部位は、おへその下の皮下脂肪の厚いところに注射してください。

*皮膚反応の発現頻度を低下させるために、注射する部位を毎回少しずつ変えてください。



8

【皮下注射の準備に注射】

- (1) 注射器のキャップをはずし、注射部位をしっかりとつかみ、注射器を垂直もしくは斜めに立てて針を刺します。
- (2) ゆっくりと注射器を押して薬液を注入します。
- (3) 薬液が全量注入されたら、ゆっくりと注射器を抜き、アルコール綿で注射部位を押さえ、絆創膏を貼ってください。

